

【NEWS RELEASE】

2019年2月28日

各 位

株式会社三井住友銀行

三井化学株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
シンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行(頭取CEO:高島 誠)は、三井化学株式会社(代表取締役社長:淡輪 敏)に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所(代表取締役:瀧崎 正弘)と弊行が作成した基準に基づき、三井化学株式会社のESG側面の取組や情報開示、SDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました三井化学株式会社の取組は、環境側面(E)、社会側面(S)及びガバナンス側面(G)の各項目について非常に高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、大変優れた取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に、ESG及びSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

E:自社の事業活動に伴う主な環境負荷を、グループ会社も含めて把握。特にCO2排出量に関しては、Scope1,2だけでなくScope3も含めて把握しており、排出削減に向けた具体的な取組を実施している。また、製品ライフサイクルの各段階で環境負荷削減に貢献するBlue Value[®]製品の提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献している。

S:独自のQOL向上評価指標Rose Value[™] Indexを策定し、「少子高齢化への対応」「健康寿命の延長」「食料問題への対応」等の社会課題に貢献する製品・サービスをRose Value[™]製品として認定する制度を構築している。

G:事業活動を通じて社会課題を解決する為、経済軸・環境軸・社会軸から成る3軸経営を深化させ、長期的視点に立った経営を実践していること。

SDGs:Blue Value[®]製品やRose Value[™]製品等の社会課題解決に資する製品を開発し、その普及を通じてユーザーのCO2排出量抑制等を実現し、SDGsが示す目標の達成に貢献している。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」およびFTSE RussellのESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

以 上

【シンジケート・ローンの概要】

アレンジャー：株式会社三井住友銀行

エージェント：株式会社三井住友銀行

組成金額：200 億円

貸出人：20 金融機関

株式会社足利銀行

株式会社京葉銀行

株式会社静岡銀行

株式会社七十七銀行

株式会社十六銀行

株式会社常陽銀行

全国信用協同組合連合会

大同生命保険株式会社

株式会社千葉銀行

株式会社千葉興業銀行

株式会社富山銀行

株式会社八十二銀行

株式会社北洋銀行

株式会社武蔵野銀行

株式会社もみじ銀行

株式会社山口銀行

山口県信用農業協同組合連合会

株式会社山梨中央銀行

その他 2 金融機関

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。